

PAT-NO: JP406011583A /  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06011583 A  
TITLE: MENU INDICATOR  
PUBN-DATE: January 21, 1994

INVENTOR-INFORMATION:  
NAME  
TSUNEISHI, ATSUSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:  
NAME COUNTRY  
SEIKOSHA CO LTD N/A

APPL-NO: JP04169034  
APPL-DATE: June 26, 1992

INT-CL (IPC): G04G001/00, G09D003/12

ABSTRACT:

PURPOSE: To resolve the trouble of daily menu planning by indicating many kinds of menu with plenty of seasonal sense for every day.

CONSTITUTION: When an action key for menu in an input means 6 is operated, the information of month, day, and day of the week are read from a calendar memory means 4. Based on it, menu information for that month is read out of a menu ROM 1, indicated on a display means 5 as the screen for that month and the menu for today is indicated below it as the screen for that day together with the present time. In the screen for that month, columns for breakfast, lunch and dinner are indicated below each date arranged in calendar form and in this column a simplified menu such as Japanese, western and Chinese cuisins are indicated and the date of that day is indicated by coloring with different color from the other days. In the screen for that day, today's menu are indicated in the columns for breakfast, lunch and dinner and genre indication such as Japanese, western and Chinese cuisin and content indication are made in each column. Thus, the user is releaved from the trouble of planning menu.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-11583

(43)公開日 平成6年(1994)1月21日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 4 G 1/00	3 1 4 Z	9109-2F		
G 0 9 D 3/12	M	7250-5G		

審査請求 未請求 請求項の数2(全 9 頁)

(21)出願番号 特願平4-169034

(22)出願日 平成4年(1992)6月26日

(71)出願人 000002381

株式会社精工舎

東京都中央区京橋2丁目6番21号

(72)発明者 恒石 淳

東京都墨田区太平四丁目1番1号 株式会

社精工舎内

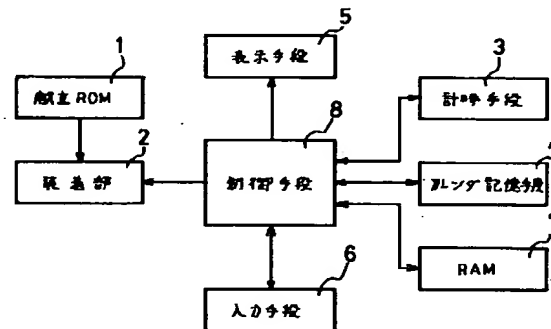
(74)代理人 弁理士 松田 和子

(54)【発明の名称】 献立表示装置

(57)【要約】

【目的】 本発明は、長期間にわたる季節感豊かな種類の献立を表示し、毎日の献立の検討の煩しさを解消するものである。

【構成】 献立ROM1には予め日付に応じた献立情報を記憶させておき、計時手段3で計時された当日の日付に応じた献立情報が日替りて読み出され、表示手段5によって表示される。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】日付情報を出力するカレンダー手段と、日付と対応した献立情報を記憶する記憶手段と上記カレンダー手段からの出力を受けて当日の献立情報を上記記憶手段から読み出す制御手段と、この制御手段によって読み出された献立情報を表示する表示手段とを具備する献立表示装置。

【請求項2】上記記憶手段は、着脱自在なICカードであることを特徴とする請求項1記載の献立表示装置。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は献立表示装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の献立を表示するものとしては、特開昭59-30254号の“栄養計算装置”がある。これは多種類の料理についてその材料等を各料理ごとに選択表示するものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のものでは各料理ごとの材料等の表示は可能であるが、長期間にわたる献立の表示はされず、毎日どの献立にするか考える煩しさをともなうものである。

【0004】本発明は、季節感豊かな種類の献立を日替りで表示し、毎日の献立の検討の煩しさを解消することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】カレンダー手段からの出力を受けた制御手段により日付と対応した献立情報を記憶手段より読み出し、表示手段に献立情報を表示することで目的を達成する。

【0006】

【実施例】以下、一実施例を図に基づいて説明する。図1において1は1年間の献立情報を記憶した着脱自在なICカード等からなる記憶手段としての献立ROMである。ここで献立情報とは、和食、洋食、中華のジャンル別に作られた朝食、昼食、夕食からなる1日毎の献立が季節感と健康を考慮し、1年間の日付と対応し配列されたものと献立中の料理一品毎の調理法からなるものである。2は献立ROM1を着脱自在に装着する装着部である。3は現在時刻および日付、月、年を計時する計時手段、4は年、月、日、曜日のカレンダー情報を記憶してあるカレンダー記憶手段、これらでカレンダー手段を構成する。5はCRT、液晶ディスプレイ等の表示手段、6は操作のためのキーボード等からなる入力手段、7は献立ROM1等から読み取った情報を記憶するRAM、8はそれらの制御を司るCPU、RAM、ROMからなる制御手段である。

【0007】次に動作について図を参照しながら説明する。まず図2と図6のフローチャートを参照しながら基

2

本動作について説明する。入力手段5より献立の起動キー操作を行うと(ステップa1)、次にカレンダー記憶手段4より月、日、曜日の情報が読み取られる(ステップb1)。それに基づき今月の献立情報を献立ROM1より読み出し(ステップc1)、図2の様に当月画面として表示手段6に表示し(ステップd1)、また今日の献立はその下に当日画面として現在時刻と共に表示する(ステップe1)。当月画面は図2に示したカレンダー形式に配置した各日付の枠の下に朝食、昼食、夕食を示す枠を設け、その枠内に和食、洋食、中華などの簡略された献立を示す表示と当日の日付の表示色を他の日付のそれと差別化することで、当日の日付を表示する。当日画面は図2に示した、今日の献立をそれぞれの朝食、昼食、夕食を示す枠を設け、その各枠内に和食、洋食、中華などのジャンルの表示と献立の内容の表示を行うものである。このように、日付が変わるごとに、その日に対応した献立が読み出され、表示されるため、使用者は献立を考える煩しさから解放される。

【0008】以後、これらの画面を通常表示画面とし、ここでは以下の動作が常時可能である。まずカレンダー復帰キー操作を行う(ステップf1)ことでカレンダー画面(1月分のカレンダー表示のみ)に復帰する(ステップg1)ことができる。先月、来月キーの操作を行う(ステップh1)ことで当月画面を先月画面あるいは来月画面に切り替えることができる(ステップi1)。週表示キーを操作する(ステップj1)ことで献立を指定の月の指定の週単位で表示できる(ステップk1)。また朝食、昼食、夕食の各調理キーを操作する(ステップl1)ことでそれぞれの献立の調理法が調理法画面として表示される(ステップm1)。以上の(ステップf1)、(ステップh1)、(ステップj1)、(ステップl1)の操作は、当月画面が表示されていれば常時おこなえる。

【0009】また経過時間に伴い当日画面は午前6時に達する(ステップn1)と、朝食の献立を示す表示の表示色等を明瞭なものにし表示の明瞭化を行い(ステップo1)、午前9時に達する(ステップp1)と、朝食の献立を示す表示の表示色等を不明瞭なものにし表示の不明瞭化を行い(ステップq1)、それにより朝食の献立の予告と朝食の終了の告知となる。同様に昼食では、午前10時に達する(ステップr1)と、昼食の献立を示す表示の表示色等を明瞭なものにし表示の明瞭化を行い(ステップs1)、13時に達する(ステップt1)と、昼食の献立を示す表示の表示色等を不明瞭なものにし表示の不明瞭化を行う(ステップu1)。夕食では、15時に達する(ステップv1)と、夕食の献立を示す表示の表示色等を明瞭なものにし表示の明瞭化を行い(ステップw1)、21時に達する(ステップx1)と、今日の献立の表示を消し(ステップy1)、明日の献立を表示する(ステップz1)。また午前0時に達

する(ステップz12)と、ふたたび(ステップd1)以下の動作を行う。次に先月、来月キーを操作を行うことで当月画面を先月の画面あるいは来月の画面に切り替える動作について図7を参照して説明する。まず先月の画面に切り替えのため先月キーを操作する、ここでは入力手段としてキーボード上のカーソルキーを使用し実施例の現在を6月とした当月画面の左上の5月を表す

“5”の表示上にカーソルを移動させ実行キーを入力することで先月キーが入力されたこととする。先月キーが入力される(ステップa2)と、ROM1より先月の献立情報を読み出し、先月の画面が表示される(ステップb2)。ここでは5月の画面が表示されている。週表示画面を表示したければ、表示したい週の行にカーソルを移動させ実行キーを入力することで週表示キーを入力したとして、週表示キーを入力する(ステップe2)と、週表示画面が表示される(ステップf2)。また週表示キーを入力しなければ(ステップg2)以下の動作を行う。以上の様に先月キーを繰り返し入力することで次々と前の月の画面を読み出し表示でき、各画面上で所望の週を表示できる。次に来月の画面に切り替えのため来月キーを操作する。実施例の現在を6月とした当月画面の左上の7月を表す“7”の表示上にカーソルを移動させ実行キーを入力することで来月キーが入力されたこととし、来月キーが入力される(ステップc2)と、ROM1より来月の献立情報を読み出し、来月の画面が表示される(ステップd2)。以上の様に来月キーを繰り返し入力することで次々と翌月の画面を読み出し表示できる。週表示画面を表示したければ、週表示キーを入力する(ステップe2)と、週表示画面が表示される(ステップf2)。また当月復帰キーを入力すると常に現在の月の当月画面に復帰する(ステップg2)。当月復帰キーを入力しなければ(ステップa2)以下の動作を行う。以上の動作により1年間の所望の月と週の献立を表示することができる。

【0010】次に週表示の動作について図3と図8を参照して説明する。当月画面上での週表示キーを入力する(ステップa3)と、図3のように例えば“6月第1週”等が表示され、各行を曜日の配列、各列を朝食、昼食、夕食の配列とした表示枠内にそれぞれの献立を表示した週表示画面に切り換る(ステップb3)。この画面を表示中に次の週の献立を表示させたいければ、図3の右上の次週を表す“次”の表示のところにカーソルを移動させ実行キーを入力することで次週キーを入力できることとし次週キーを入力する(ステップc3)と、その次の週で月が変わるか判断する(ステップd3)。変らなければ次週の週表示画面を表示する(ステップf3)。月が変わるのであれば、献立ROM1より来月の献立情報を読みだし(ステップe3)、次週の週表示画面を表示する(ステップf3)。ここで次々と次週キーを入力してゆき、その月の最後の週まで表示を行うと来月の週表示

画面となる。

【0011】同様に先週の献立を表示させたいければ、図3の左上の先週を表す“先”の表示のところにカーソルを移動させ実行キーを入力することで先週キーを入力できることとし先週キーを入力する(ステップg3)と、その前の週で月が変わるか判断する(ステップh3)。変らなければ先週の週表示画面を表示する(ステップk3)。月が変わるのであれば、ROM1より先月の献立情報を読みだし(ステップj3)、先週の週表示画面を表示する(ステップk3)。ここで次々と先週キーを入力してゆき、その月の最初の週まで表示を行うと先月の週表示画面となる。当月画面に復帰したければ当月復帰キーを入力する(ステップl3)ことでいつでも当月画面に復帰できる(ステップm3)。

【0012】次に調理法表示の動作について図4、図5と図9のフローチャートを参照しながら説明する。図の当日画面中の朝食、昼食、夕食等の各表示行の右端の調理法を表す調の表示にカーソルを移動させ実行キーを入力することで各食キーを入力したとし、各食キーを入力する(ステップa4)と、まず材料画面が表示される(ステップb4)。材料画面は例えば昼食の行の各食キーを入力したとすると、図4のように“今日の昼食”と表示され夕食の行の各食キーを入力すると、“今日の昼食”と表示される表示と、1画面あたり献立の二品を図4のように上下の枠に表示し、それぞれの枠内に一品ごとの名称、例えば“オムレツ”とその約4人分の材料、例えば“ひき肉．．．．．300g”等の表示と、一人あたりのカロリー、一品あたりの標準的費用、調理時間等を表示する。品目が3種類以上ある場合は画面を切り換えて次の画面で表示する。次に材料画面の最後であるか判断し(ステップc4)、材料画面の最後であれば、献立全品での一人あたりの総カロリーと4人分の総費用と総調理時間等を表示する(ステップd4)。

【0013】次の画面を表示するには、画面の右上の次画面を表す“次”の表示にカーソルを移動させ実行キーを入力することで、次画面キーを入力したとして次画面キーを入力する(ステップe4)と、次画面の有無を判断する(ステップf4)。次画面があれば、次画面が表示される(ステップg4)。そして、(ステップc4)以下の動作に戻る。以上の動作を繰り返し次々と次画面を表示する。材料画面の次には、調理画面があり1画面あたり献立の二品を図5のように上下の枠に表示し、それぞれの枠内に一品ごとの調理法が表示される。

【0014】次に前の画面を表示するには、画面の左上の前画面を表す“前”の表示にカーソルを移動させ実行キーを入力することで、前画面キーを入力したとして前画面キーを入力する(ステップh4)と、前画面の有無を判断する(ステップi4)。前画面があれば、前画面が表示される(ステップj4)。そして、(ステップc4)以下の動作に戻る。以上の動作を繰り返し次々と前

画面を表示する。

【0015】当月画面に復帰したければ、当月復帰キーを入力する(ステップk4)ことで当月画面を表示し、調理法表示動作を終了する(ステップ14)。ところで献立ROM1に記憶させておく献立は、日付に応じて季節の旬のものを材料としたものとし、また献立の内容も季節に応じて、冬は鍋物を多くする等選択しておくことが好ましい。

【0016】また使用者に応じた献立情報を記憶したICカードを各種用意しておくことが好ましい。例えば、健康者用、高齢者用、食事療法者用等を対称としたICカードを制作しておくことにより、使用者がこのうちから最適のものを選択することができる。

【0017】また一実施例の今日の献立画面の1食毎の献立に選択性をもたせ、指定操作により選択可能とすることも可能である。例えば各献立として和食、洋食、中華の3種類を用意しておき、所望の選択操作により、いずれかを選択できるようにすれば、使用者が好みにあった献立を選択することができる。

【0018】

【発明の効果】本発明によれば、毎日の献立を考える煩しさを解消できる。またその献立内容も季節にあつたものとすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】一実施例の全体の構成を示すブロック図。

【図2】一実施例の当月画面を示す説明図。

【図3】一実施例の週表示画面を示す説明図。

【図4】一実施例の調理法画面の材料画面を示す説明図。

【図5】一実施例の調理法画面の調理画面を示す説明図。

【図6】一実施例の基本的動作を説明するフローチャート。

【図7】一実施例の先月あるいは来月の当月画面の表示動作を説明するフローチャート。

【図8】一実施例の週表示画面の表示動作を説明するフローチャート。

【図9】一実施例の調理法画面の表示動作を説明するフローチャート。

【符号の説明】

1 献立ROM

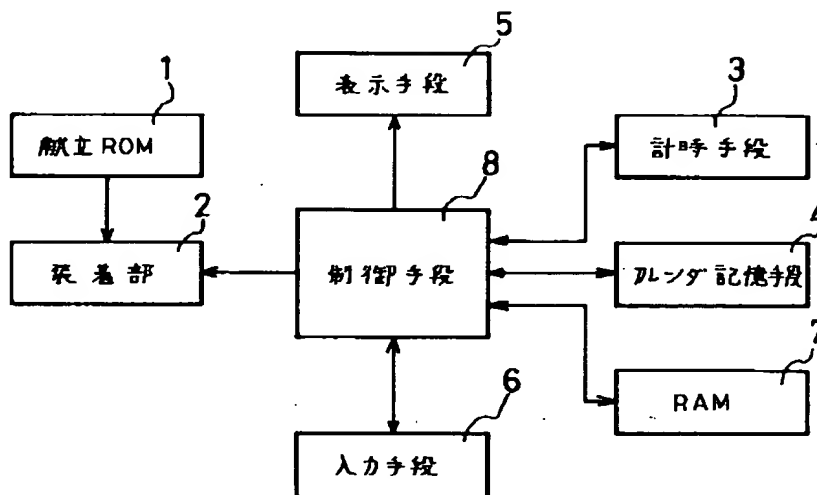
3 計時手段

4 カレンダー記憶手段

6 表示手段

8 制御手段

【図1】



【図3】

先		6月第1週		3月曜		次	
		朝食 和食	昼食 和食	夕食 和食			
5/3	日	ミソ汁、ナサン	ナギナギチー オニオンスープ	アジの塩焼、菜の オムラ			
5/4	月	和食	和食	中華			
5/5	火						
5/6	水						
5/7	木						
5/8	金						
5/9	土						

【図5】

前

3月後解

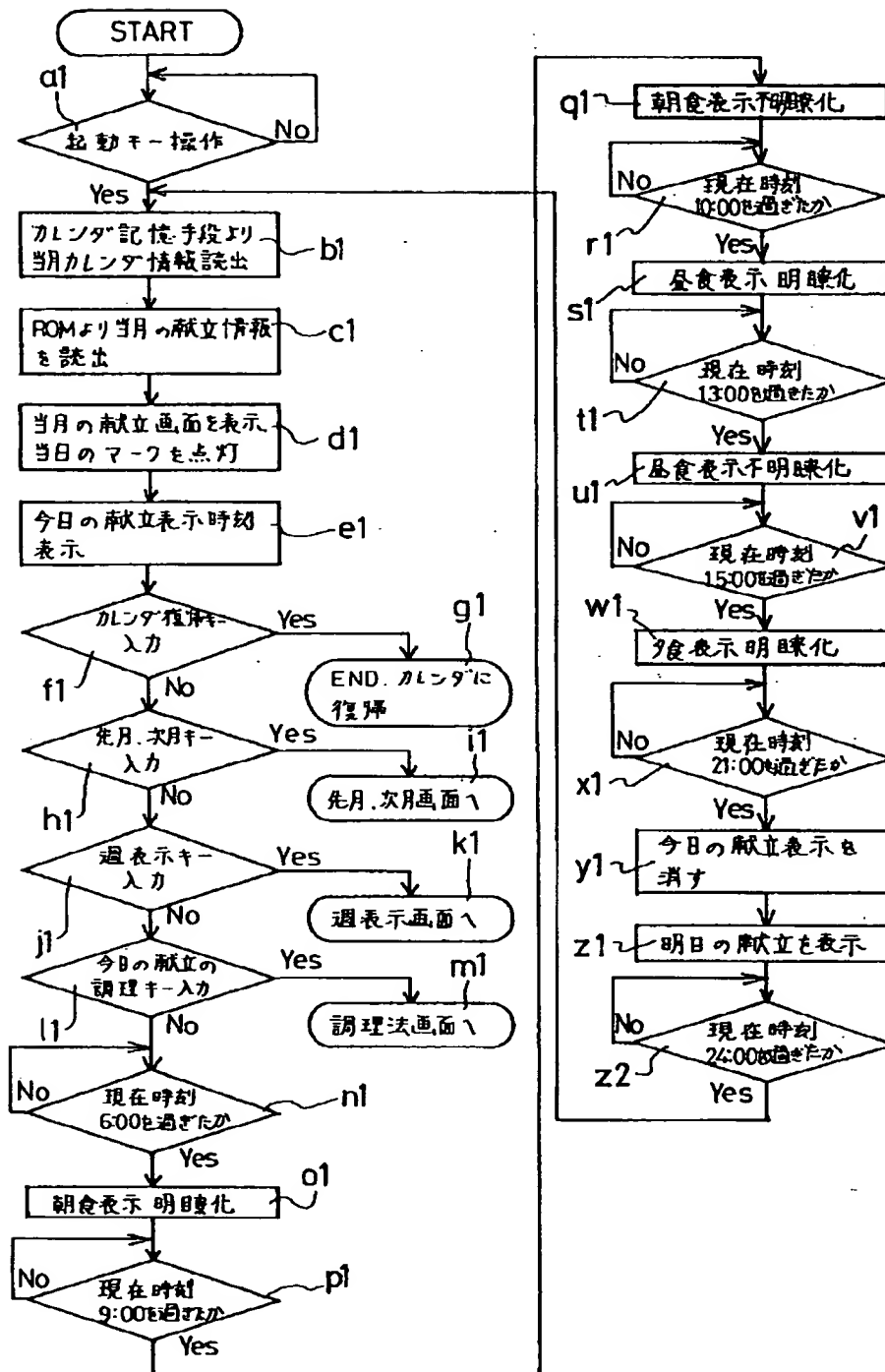
次

**74Lツ調理法**

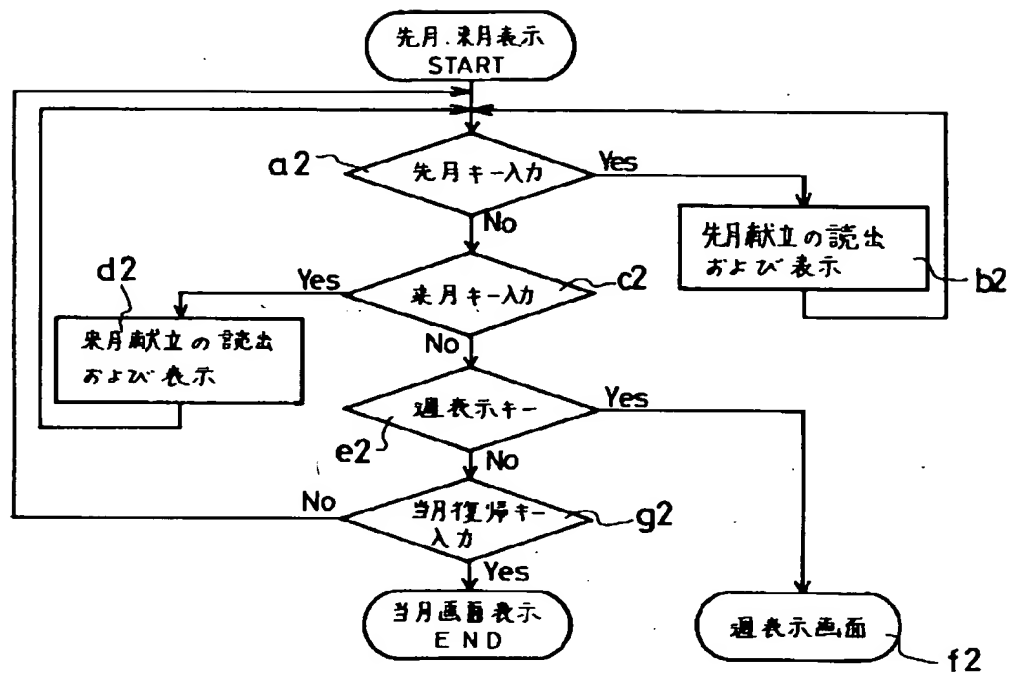
1	2	3	4	5	6
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

**74ラゲ調理法**

【図6】

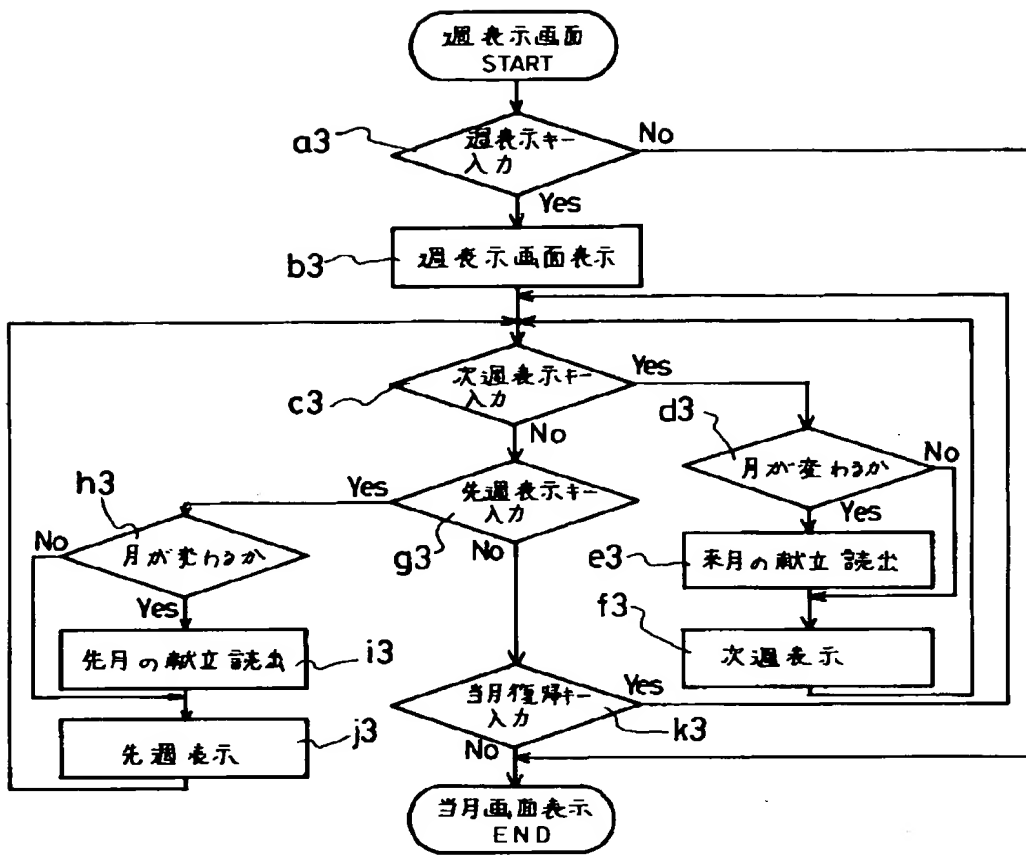


【図7】





【図8】



【図9】

